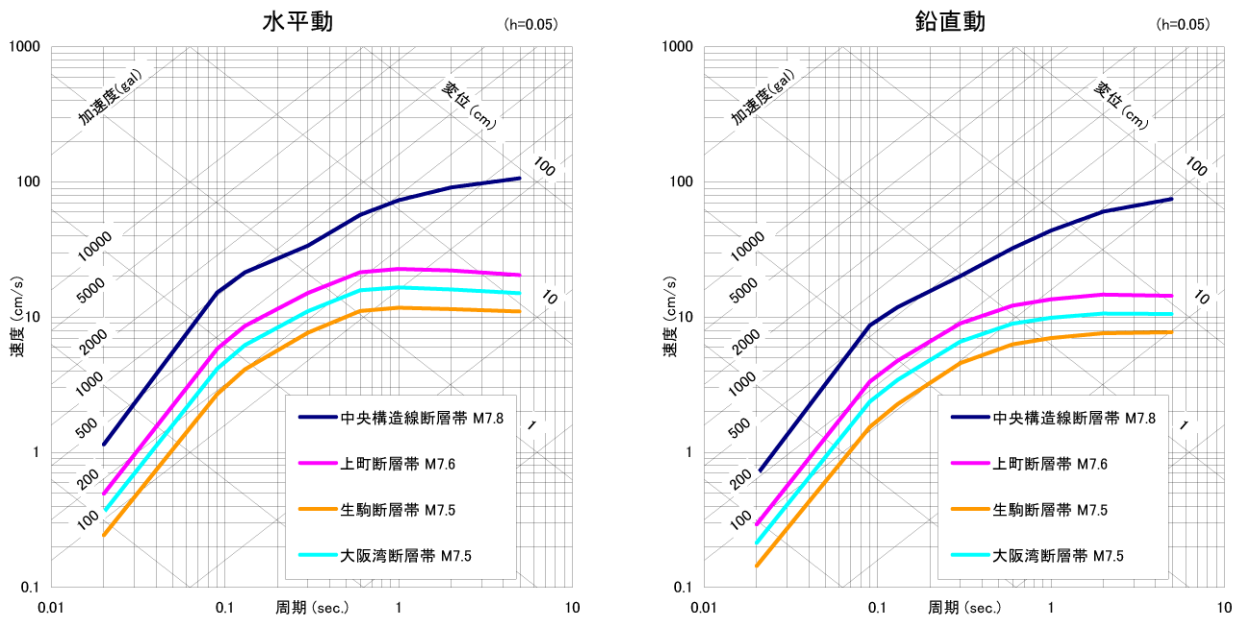
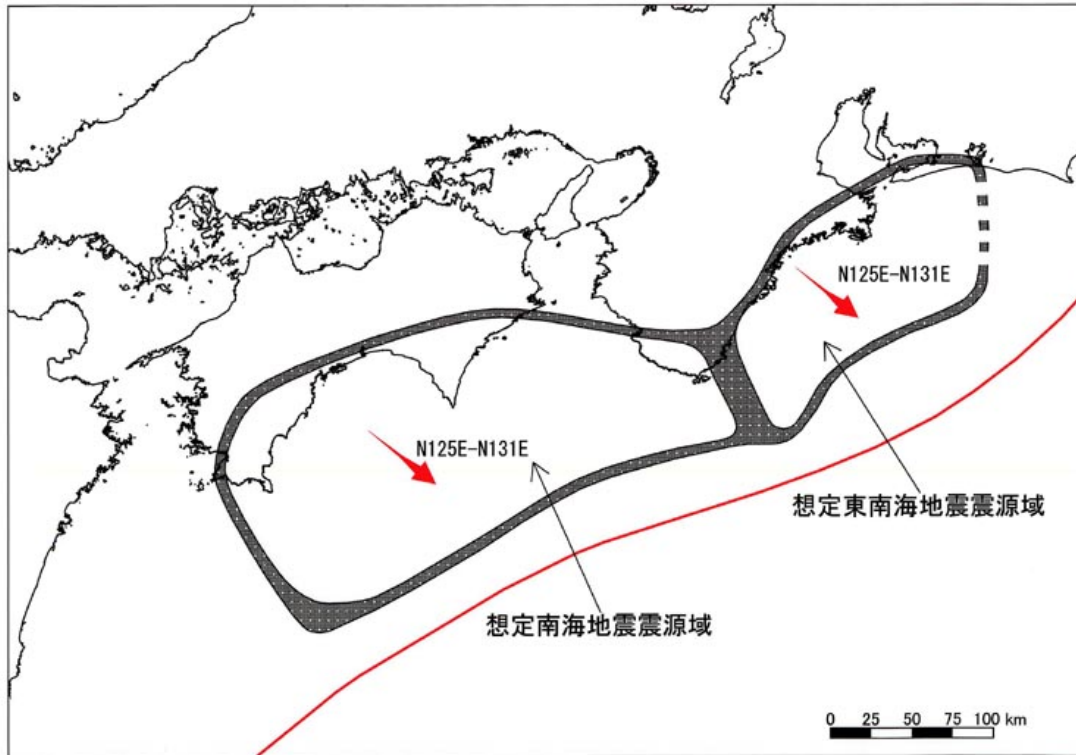


地震諸元は、「気象庁地震カタログ」による⁽¹⁰⁾

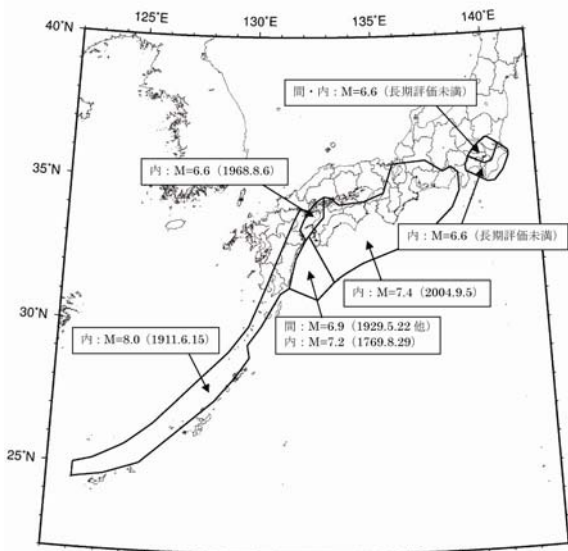
第 4.2.3-2 図 敷地地周辺における活断層分布と M5.0 以下の地震の震央分布



第 4.2.3-3 図 内陸地殻内地震の応答スペクトルの比較



第 4.2.3-4 図 想定南海地震および想定東南海地震の震源域
(地震調査研究推進本部(2001) (2))

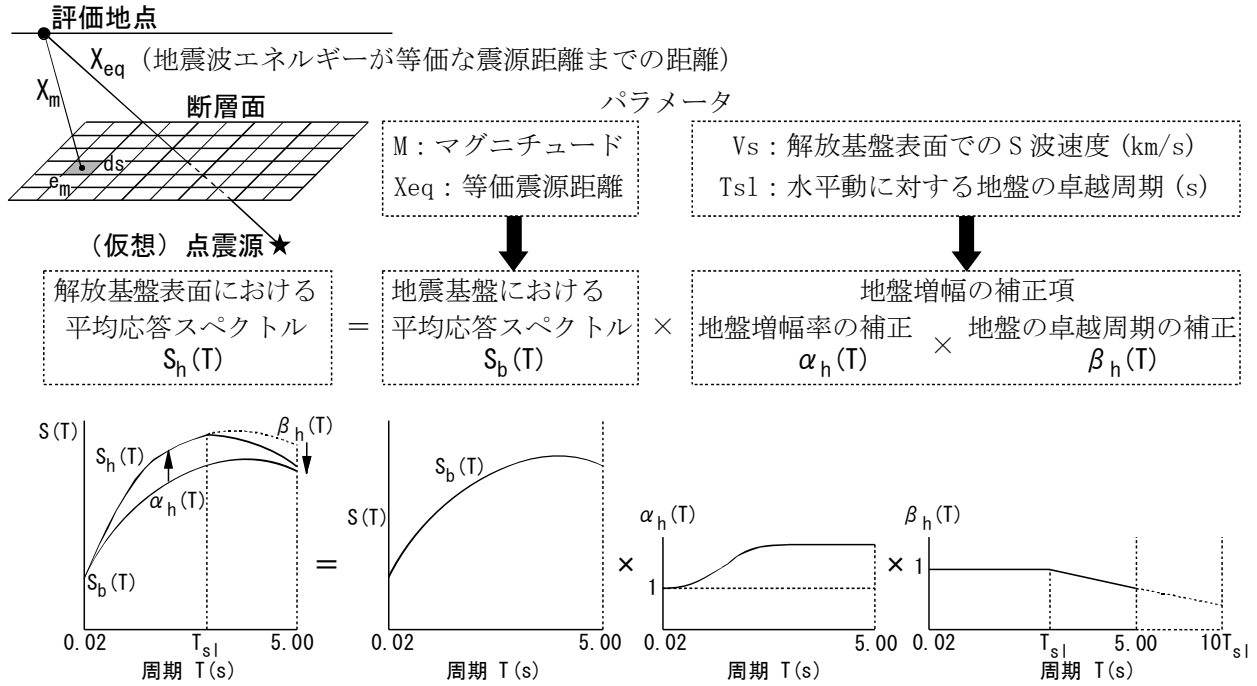


間: プレート間地震、内: プレート内地震

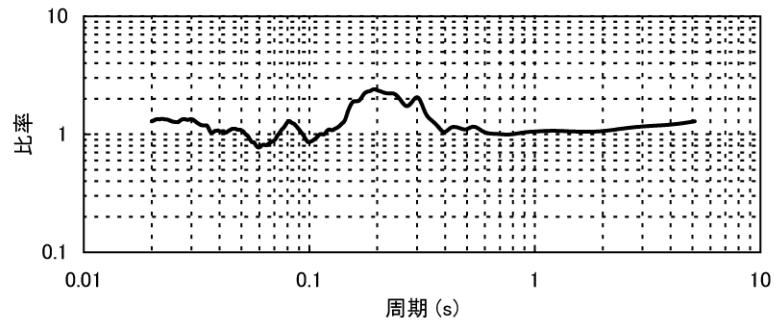
地域区分ごとの最大マグニチュード

番号	最大 M	根拠	備考	
1	プレート内	7.4	2004.09.05 紀伊半島南東沖	
2	プレート間	6.9	1929.05.22 日向灘	海溝型地震として M7.0 以上の地震が別途考慮されている。
	プレート内	7.2	1769.08.29	長期評価の記載に基づき設定。
3	プレート内	6.6	1968.08.06 愛媛県西方沖	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。
4	プレート内	8.0	1911.06.15 奄美大島近海	震央位置は、Gutenberg-Richter のカタログの位置を採用。
5	プレート間	6.6	(長期評価対象M未満)	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。
	プレート内	6.6	(長期評価対象M未満)	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。
6	プレート内	6.6	(長期評価対象M未満)	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。

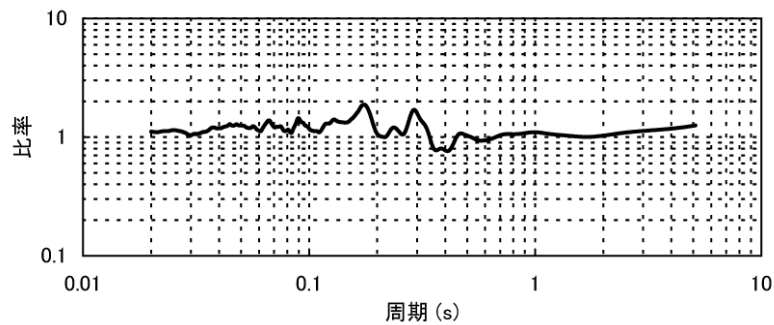
第 4.2.3-5 図 フィリピン海プレートの震源断層を予め特定しにくい地震の最大マグニチュード
(地震調査研究推進本部 確率論的地震動予測地図の説明資料より(2006) (17))



第 4.2.4-1 図 Noda et al. (2002)⁽²³⁾による水平地震動応答スペクトルの考え方

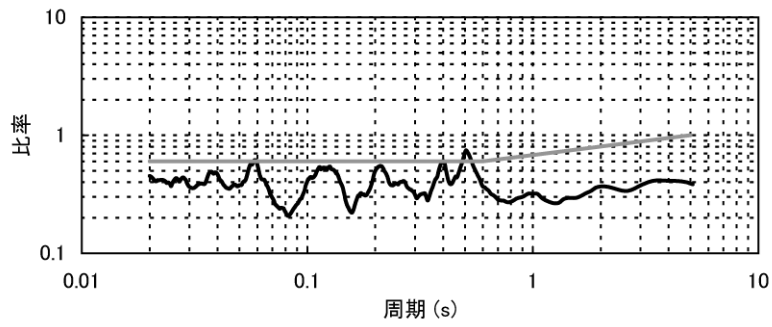


(a) 水平方向

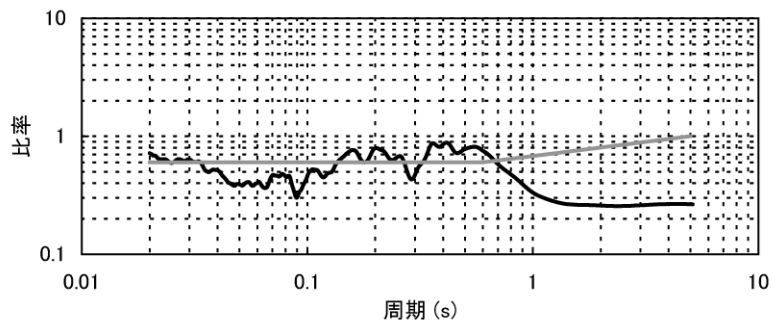


(b) 鉛直方向

第 4.2.4-2 図 地表から KUCA 建屋内への伝達特性

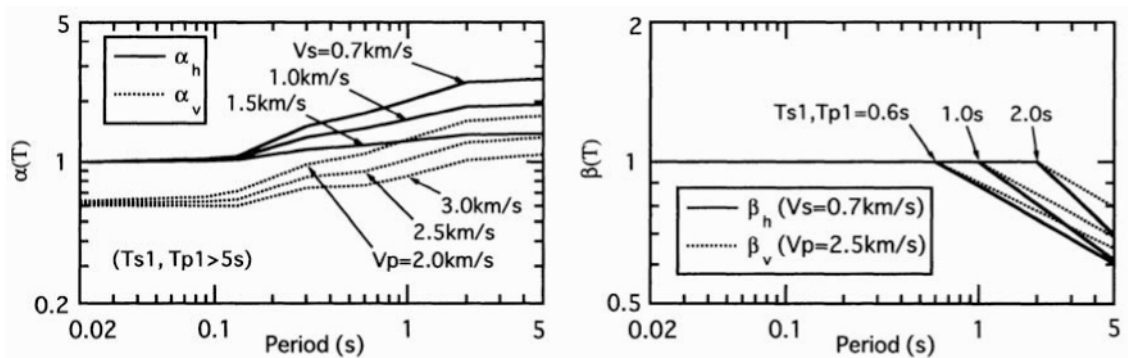


(a) 水平方向



(b) 鉛直方向

第 4.2.4-3 図 地表から KUCA 建屋内への伝達特性を考慮し観測記録から求めた解放基盤におけるスペクトルと応答スペクトルに基づく地震動評価結果の比較



第 4.2.5-1 図 Noda et al. (2002)⁽²³⁾による水平・鉛直地震動の地盤増幅率の例